

国立公害研究所総合解析部 内 藤 正 明

この種複雑な系の変係数推定を巧妙に行う手法を提案しているものとして本報は興味ある論文で、この面では高く評価されるものであろう。ただし、以下の諸点に関して若干の疑問があるので authors の見解を伺えれば幸いである。

- (1) 先づ論文のタイトル“逆推定”ということについてであるが、逆推定とはシステムの出力を知って入力を推定することと理解されるが、ここでは結局システムパラメータを同定していることになるので、逆推定という表現は当を得ているのだろうか。ただし、ここでのパラメータは場所の関数として変化しているので、数式モデルの中では入力と同等であるから、数理手法的には差はないであろうが、通常表現とは異なると思われる。
- (2) 数値計算に F E N を組み込むなど、数理手法に工夫がなされ検討の重点が置かれていると思われ、浸透という現象は単にその手法の適応対象例として取り上げているという印象を受ける（もし浸透係数を推定することが目的であれば、このような高度な手法を必ずしも用いるとは思われない。）。その意味からは本研究討論会よりも、数理手法を対象としたような討論の場で発表の方が正当な評価と関心を得るのではないかとと思われるが如何？